

「坂本重点区域」の理解を深めるために

大津市都市魅力づくり推進課 杉江 進

[1] 歴史的風致と歴まち〔概要版：1頁〕 根拠法令：（愛称）歴史まちづくり法

・歴史と伝統を反映した人々の営み、生活、活動

+

・歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地

↓

・一体となって形成してきた良好な市街地の環境（歴史的風致）の維持・向上を促し、後世に継承していく。

・「大津市歴史的風致維持向上計画」は、12の歴史的風致〔概要版：3頁～6頁〕と3つの重点区域〔7頁～9頁〕を設定し、令和3年3月23日、全国で85番目に認定

・計画期間 令和3年度（2021）から令和12年度（2030）までの、10年間

[2] 坂本の歴史的風致〔概要版：5～6頁〕

テーマ②古都と仏教の古刹への信仰

⑦比叡山とその山麓に見る歴史的風致

比叡山の山上の延暦寺での仏道修行の背景には、坂本や葛川（かつらがわ）などの地域の信仰がありました。里坊群と門前町が一体となったまちなみのなかで、今も延暦寺を支える活動や行事が執り行われています。

テーマ③大津三大祭に代表される祭礼行事

⑩山王祭に見る歴史的風致

4月、全国に3,800あまりある日吉（日枝）神社の総本宮である日吉大社の祭礼「山王祭（さんのうさい）」が、盛大に開催されます。境内の八王子山から琵琶湖を舞台に、華やかさと勇壮さを兼ね備えた祭礼が、4日間にわたって繰り広げられます。

[3] 坂本の歴史

1. 延暦寺創建以前、『古事記』に「日枝山」がみられる。
2. 日吉社は、西本宮（3社）と東本宮（4社）の上7社を中心に、多く神々を祀る。
3. 延暦寺は延暦7年（788）最澄が入山。当初は比叡山寺と呼ばれていたが、桓武天皇の平安京遷都にあたって都の鬼門を護る王城鎮護の寺となり、皇室・貴族の崇敬を集める。貴族とのつながりを深め、多くの荘園を集積し、経済的にも大きな富力をもつ。
4. 「本」とは「すぐそば」との意味。比叡山への登り口。古代・中世には、東坂本（大津市、

坂本)と西坂本(京都市、修学院・一乗寺)があったが、いつの頃から坂本と言えば近江の坂本をさすようになる。但し、延暦寺・日吉大社の門前町と湖岸の2地域の総称。江戸時代になると、上坂本(坂本)と下坂本(浜坂本)として史料に現れる。

5. 日吉社は延暦寺の守護神として、神仏習合の信仰の中で一体のものとして活動する。平安時代から延暦寺の僧兵が日吉社の神輿(みこし)をかついで朝廷に強訴(自分たちの要求をのませようとする)する事件が、しばしばおこる。
6. 元亀二年(1571)織田信長の焼打ちにより延暦寺・日吉社は灰塵に帰す。
7. 江戸時代の坂本(上坂本)は、延暦寺、日吉社の門前町として繁栄する。
8. 明治の神仏分離で日吉社境内の仏教色が一掃される。仏教にかかわるもの(堂舎、仏像など)は破却され、境内の灯籠は日吉馬場に移される。現在の日吉馬場の景観は明治から。
9. 延暦寺は、平成6年(1994)、「古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市)」として、京都市の14の社寺城、宇治市の2の社寺、とあわせて世界遺産に登録される。

#### [4] 坂本をめぐる歴史的風致

##### ⑦比叡山とその山麓に見る歴史的風致

###### ●比叡山の信仰に見る歴史的風致

- ・延暦寺根本中堂と御修法
- ・延暦寺大講堂と法華大会
- ・延暦寺四季講堂と元三会
- ・旧公人屋敷と山門公人

###### ●比叡山山麓の社寺と延暦寺への信仰に見る歴史的風致

- ・無動寺谷と回峰行
- ・葛川周辺の社寺と葛川夏安居

###### ●門前町坂本での行事・活動に見る歴史的風致

- ・里坊での法要と穴太衆積みの石垣
- ・東南寺と戸津説法
- ・西教寺と法華千部会
- ・聖衆来迎寺と虫干会
- ・地藏堂と地藏盆

##### ⑩山王祭に見る歴史的風致

- ・日吉大社西本宮本殿、他

#### [5] 「坂本重点区域」の要件

- ・「文化財保護法の規定により重要文化財として指定された建造物の用に供される土地」「文化財保護法の規定により選定された重要伝統的建造物群保存地区内の土地」：国宝日吉大社西本宮本殿ほか、大津市坂本伝統的建造物群保存地区